

台東育英

VOL. 22

No. 4

台東区立台東育英小学校

校長 瀬下 清

TEL 3851-3600

<http://www.taitocity.net/taitoukuei-s/>

読書旬間を終えて ～読書の愉しみ～

副校長 原 之雄

私が小さな子供だった頃、とても好きだった本とアニメがありました。それは斎藤隆介作の絵本「八郎」とTVアニメ「未来少年コナン」です。前者は自分で読んだというよりも、当時の担任の先生に何度もせがんで繰り返し読んでもらったものです。後者は後年誰に言っても「名探偵コナンのこと？」と返され、話が通じず残念な気でいました。40年位前のアニメで私自身の記憶も薄れ、ストーリーすらよく思い出せないくらいなので仕方ないのですが。そんな中、コロナ禍でテレビ番組制作が進まなかったからなのでしょうか、昨年NHK総合で全話が再放送されたのです。私は歓喜し、毎週欠かさずに全話を見たのでした。

昔話風の「八郎」と近未来の話「未来少年コナン」、全く毛色の違うこの2つの作品に共通するものは、当時の自分にとって何がそんなに魅力だったのか、今回何となく分かったような気がしました。それは、一言でいえば「心優しき野蛮人」ということです。言動は粗雑だし、洗練さとは無縁ですが、ひたすら強く、心優しき漢たち。「粗にして野だが卑ではない」を地でいく姿に、決してそうはなれない脆弱な自分をよく分かっているからこそ、憧れたのでしょう。

閑話休題。これからの変化の激しい社会を生きていくうえで重要になる力は、問題解決の力だと言われて随分時間が経ちました。人は誰でも生きていく上で未知の困難な局面にぶつかり、必ずしも答えのない問題に対して、決断して行動していかなければなりません。また、自分のことだけでなく、周りの人間とも折り合いをつけ、互いが幸せになれるようにしなければなりません。だからこそ、知識の習得にのみ重点を置くのではない「主体的、対話的で深い学び」が求められています。一人一人が成熟社会を幸福に生きていくための学習です。この「対話的」という言葉は「他者との対話」だけなのか。私は、「自己との対話」も含んでいると考えます。その「自己との対話」の最たるものが読書でしょうか。

ある読書家がこんなことを言っています。「読書は面白くないという人がいる。早まっちはいけない。読書には段位というものがあるのだ。やっと初段の人に三段や四段の本の面白さが分かってたまるものか。それなら四段になったとき読む本がなくなってしまうではないか。」「しかし、高段者になってから初級者向けの本を読んでやはり面白いと思うこともしばしばある。“坊ちゃん”などはそうだった。そういう本を名作というらしい。」

「坊ちゃん」に「八郎」や「未来少年～」と共通する要素があるかを考えてみるのも面白そうです。また、「坊ちゃん」に江藤淳指摘の敗北の寂しさを読むことも可能でしょう。しかしそんな深い読みをしなくても、いわば読書初心者でも楽しめるのが“名作”の素晴らしいところ。夏の前のじめじめした季節に子供も大人もからっとした読書をしてみてはいかがでしょうか。読書旬間は終わっても、読書の愉しみは続きます。

20周年記念子ども祭りについて

特別活動主任 高橋 芳絵

6月29日(火)の1・2・3校時に「子ども祭り」が行われました。例年であれば、2年生から6年生の各学級の児童がお店屋さんになって、みんなを楽しませます。昨年度は、ボーリング、的当て、間違い探し、謎解きなど、各学級工夫を凝らした内容で、とても楽しいひと時となりました。

今年は、緊急事態宣言を受け、コロナウイルス感染症対策のために、規模を縮小して行いました。

6年生にとっては、小学校生活最後の子ども祭りです。「心に残る思い出をつくってほしい」「活躍の場を確保し、自己有用感や達成感を味わってほしい」という願いから、6年生のみ、おたけ屋敷の出し物を準備しました。そして、1年生から5年生がお客さんとなりました。

6年生は、実行委員を中心として、お店の計画や運営を行いました。一人一人が自己の役割を果たし、自主性を養うことができました。また、仲間と話し合ったり、協力し合ったりすることでクラスの絆がより深まったことだと思います。

様々な制限のある状況下でも、数々の工夫を凝らしてみんなを楽しませてくれた6年生に対して、1年生から5年生の児童は、「本当に怖かったな」「すごいな」「さすがだな」「いつか自分も6年生みたいになりたいな」との感想を次々と話していました。そんなみんなの憧れの6年生に向けて、心を込めて感謝の手紙を書き、届ける予定です。

子ども祭りを通して、台東育英小学校のみんなが仲良くなれたらすてきですね。そして、子ども祭りの取り組みが、学校を大好きになるきっかけとなっていたら嬉しいです。

金管バンド 夏の大会に向けて

金管バンド担当 阿部 裕介

今年度、金管バンドの活動が始まってから三か月が過ぎようとしています。

4月にスタートした途端、緊急事態宣言を受け活動が大幅に制限となりました。しかし、今できることを精一杯取り組むというめあてのもと、6年生12名、5年生9名、4年生14名、計35名、一人一人がひたむきな努力を続けてきました。現在は、8月3日のバンドフェスティバル予選、8月29日のバンドフェスティバル都大会に向けて練習に励んでいます。

さて、今回2年ぶりの大会に向けて練習している曲は、「秋風の旅人」です。雄大な自然と大地の美しさをテーマにした曲で、豊かな自然の情景を想像しながら、演奏の工夫や響く音を考えながら音を合わせています。自分たちの音に自信をもち、会場全体に美しい音が響き渡るまで、まだまだ先は長いですが、輝かしい伝統を受け継ぎ、音楽を楽しく自信をもって演奏できるよう、これからも練習していきたいと思えます。

来月からは、マーチングの練習も本格的に始まります。立ち方、歩き方、姿勢など基礎から始め、自分の動きが示されたコンテを理解しながら、身体でフォーメーションを覚えていく練習はとても根気が必要ですが、皆の心が一つになった動きができるよう練習していきます。

保護者の皆様からは日頃より金管バンドの活動にご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。教職員共々、心より御礼申し上げます。今後とも温かな目、お言葉で見守っていただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



水泳指導がスタートしました！ 体育委員会

6月21日（月）に延期となっていたプール開きを行いました。例年とは違い、放送でのプール開きとなりましたが、「水泳の学習が楽しみ。」「一昨年よりも級を上げるぞ。」と子供たちの素直な声が聞こえました。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止に努めながら水泳指導を行ってまいります。PTAより水泳マスクを購入していただきました。水泳の学習中はもちろん、更衣の際も密にならず、話をしないことなど新しいルールとなります。また、夏季水泳指導は行わない、プール納めを1学期中に行うなど、例年と大きく変わることがたくさんあります。カードへの検温記入や印押し、マスク忘れなどをしてしまうと、プールに入ることができなくなってしまいます。保護者の皆様には、様々な面でお手数をお掛けしてしまいますが、子供たちの安全面を例年以上に考え、取り組んでまいりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

台東育英小学校で取り組んでいる体育検定の種目の1つに、水泳があります。学年に応じた合格基準が設定されていますので、合格目指して頑張る子供たちに、ぜひ、励ましの声をかけてあげてください。1・2年生にとっては、初めての水泳学習。全ての児童が目標を達成し、楽しかったと終わられるように指導してまいります。



委員会紹介

<集会委員会> 岡部 遥音

集会委員会では、1組グループと2組グループに分かれて、集会に向けていろいろなゲームを考えたり、進行したりしています。台東育英小学校の皆さんに、楽しんでもらえるよう頑張ります。

<図書委員会> 高木 彩友音

図書委員会では、主に本の貸し出しや、読書旬間で皆さんが楽しめるようなイベントや、1、2年生への読み聞かせをしています。台東育英小学校の皆さんに、もっと本を好きになってもらえるよう頑張ります。ぜひ、本を読んでください。

<放送委員会> 吉田 康希

放送委員会では、朝、休み時間、お昼の放送を中心に活動しています。お昼の放送では、みんなが楽しく過ごせるようにクイズを出したり音楽を流したりしています。みなさんが学校生活を楽しくめるよう放送しています。放送が始まったら静かに聞いてください。

<保健環境委員会> 齋藤 凧

保健・環境委員会の主な仕事は、お水の検査や、石けんの補充、メダカのえさやり、植物の水やりなどを行っています。感染症予防のために、手洗い・うがいをしっかりしてください。

<運動委員会> 原 一馬

運動委員会では、5・6年生が決まった時間に竹馬の整理を行っています。ときどき竹馬がバラバラになっていることがあります。竹馬は丁寧に片づけてほしいです。ご協力お願いします。

<給食掲示委員会> 長岡 ひかり

給食・掲示委員会は給食の時の給食についての放送、北階段の掲示物、運動会のスローガンを作成するなどの仕事に取り組んで活動しています。これからも給食は残さずおいしく食べましょう。

<代表委員会> 池内 昊太郎

今年度の代表委員会の仕事内容は、台東育英小学校20周年のことを考えたり、各行事のスローガンや約束を考えたりします。ユニセフ募金も行う予定です。ご協力よろしくお願ひいたします。